

会長挨拶ー同窓会活動の継続のために

秋山 三郎（46年卒医・医）

新型コロナ感染症は、昨年末、第8波感染ピークを境に感染者数は減少に転じ、政府は3月頃からマスク着用義務解除の方向を打ち出すと共に、5月20日には現在の感染症法上の分類2類指定から季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げ変更を表明するなど、今後、通常の日常生活、経済活動に戻ることになるのは、誠に喜ばしい限りです。

この様な中、去る2月5日（日）、北大茨城県同窓会役員会をWEB会議形式で開催、出席者は会長の秋山（S46卒、医・医）、2名の副会長、綱川（同52、歯・歯）、櫻井（同52、工・衛工）、会計の吉田（同52、農・農化）の4名。なお、副会長、椎名（同44、医・医）から事前に辞意表明と役員会欠席の申し出が有りましたので了承。

第一号議事は、令和4年度事業と会計報告。「エルム茨城」の発行事業（令和4年3月発行済）と関係費用の支出と、北海道大学校友会エルム会支援金の授受報告（別紙）があり、内容を確認し了承した。

次いで令和5年度の事業の検討に入る。県同窓会の今迄の活動状況を振り返り見た所、日製OBの鷺山会長や県庁関係の福島会長時代はそれなりに活発でしたが、東日本大震災以降の同窓会活動は様々な要因が重なり低調になっている。これ迄に行ってきた事業は隔年に行ってきた総会・役員改選、「エルム茨城」の発行、「北大寮歌を歌う会」の開催、山登り・ハイキング・バーベキューなどのアウトドア活動等有る。

令和5年度は同窓会総会開催の年でも有ります。新型コロナ感染症も収束傾向に有り。本来であれば同窓会活動を活発に再開しなければならない所ですが、現在はこれ等の事業を実行する際、中心になって企画立案、実行する担当者の高齢化や、行事に参加する者の高齢化が進行、事業の継続、実行困難な実情が有ります。又、会長の私は77歳、副会長3人はほぼ同期の70歳前後と高齢化進行中。又、以前は役員としてかなりの人数の登録があったが、今は殆どされていない状況で、私を始め、今の4人で構成する役員会では県同窓会の事業企画立案、実行、運営する力は無いと認めざるを得ません。これ等の状況を踏まえ、今回の役員会では、「北大茨城県同窓会を今後継続運営する事は困難なのでここに県同窓会を解散する事やむを得ない。

しかしながら、県同窓会を解散する前に今一度、会員の皆様に同窓会活動を担ってくれる方や、グループがいないかお諮りすることにいたしました。

茨城県内で職場や学部・学科、学寮などの同窓生活動をされている方々に、県同窓会組織運営の核となっただけであれば、今後も一定の活動水準を維持することができ北大茨城県同窓会を解散しなくて済むのではないかとの思いです。同窓会は個人の集まりですが、本会のように広域（県内）かつ広範囲（全学部対象）の組織の場合、繋がりが密接な組織を基盤

とした方々が結集し活動の中心となっていたかかないと運営が難しいと考えております。

私としては県同窓生会員の中から同窓会活動を担ってくれる方や、グループの方が名乗り出てくれる事を切に願っております。別記の募集告知をご覧ください。宜しくお願い申し上げます。

先輩方が昭和 45 年に立ち上げ約 53 年の活動の歴史を持つ北大茨城県同窓会を今回、解散せざるを得ないような危機的状況に落としめてしまった事は、私の力不足、不徳の致すところ、誠に申し訳なく思い、お詫び申し上げます。

以上、役員会の報告をもって会長の挨拶とさせていただきます。